

平成 20 年 3 月 13 日

平成 19 年度「獲得免疫系が地上重力環境に適応するための遺伝子ネットワーク制御機構の解明」活動報告書

代表者所属 氏名 安友康二

1. 構成メンバ

氏 名	所属
安友康二	徳島大学
前川洋一	徳島大学

2. 本年度 WG 会合開催実績

(1) 第 1 回：平成 20 年 1 月 17 日
宇宙利用シンポジウムに参加し、参加者のポスター発表およびポスター発表における discussion に参加した。

3. 活動目的

宇宙利用シンポジウムに参加することによって、最新知見を収集すると同時に新たな研究の方向性を探ることを目的とした。特に、医学系において、免疫系と重力に関する研究は、重力と骨あるいは筋肉系などとの関連性に関する研究と比較するとその研究の層は非常に薄い。その観点から、今回の活動としては、他の分野で得られた実験方法をどのように免疫系の研究に応用するかについて重点的に情報を収集することを目的とした。

4. 活動内容

本会合に参加することによって、最新の知見と研究の方向性を探ることができた。以下にその方向性について、述べる。

(1) 重力を感受するための遺伝子を同

定するための網羅的解析をする上での、新たな培養系の構築を着想するに至った。

(2) マウスに過重力を与える際に工夫する点を会合参加者から教示された。

(3) 免疫系と重力との関連性を解析する上で、マウスに対するストレスが免疫系に対して及ぼす影響を否定できない。本点に関して参加者と討議を重ねたが、ストレスの影響を除去するためのよりよいコントロール実験を着想するには至らなかった。

5. 成果

残念ながら研究を遂行するための研究費を支給されていないことから、実際に研究を行うことは不可能であったため、成果は得られていない。